

報告番号	※	第	号
------	---	---	---

主 論 文 の 要 旨

論文題目

インドネシア語における限定表現

氏 名

Utari Novella

論 文 内 容 の 要 旨

インドネシア語の標準語の限定表現には *saja*, *hanya*, *sekadar*, *semata-mata* がある。砕けた会話では *cuma*, *cuman*, *aja*, *doang* が使われる。それらは限定副詞及び限定接続詞として機能している。これらの限定副詞は話し言葉でも書き言葉でもよく見られるが、誤用がよく発生する。各限定副詞の意味が似ているため、意味が同じだと思う人が少なくない。そのため、詳細な研究が必要である。本論文では、インドネシア語における限定表現の用法について論じた。また、日本語の限定のとりたて助詞と対照した。

第 2 章では、先行研究を踏まえ、文中で各限定副詞 (*saja*, *hanya*, *sekadar*, *semata-mata*) の現れる位置、焦点化構文を記述し、またインドネシア語の大辞典に書かれた各限定副詞の意味及び実際に分析したデータを参照しながら、各限定副詞がどのような限定としての意味の特徴を含むか、限定以外の意味を含み得るかを詳細に考察した。

- a. 限定副詞 *saja* は位置から見ると被限定要素の後に現れるか、語に後接する。意味の面では、*saja* の用法は、限定としての意味と限定以外の意味の 2 つに分類できる。限定の意味では、基本的に *saja* は、被限定要素を排他的に取り上げ、話し手の中にある基準、予想より少ないという事実のみを表し、予想より少ないが、特に少ないということを強調した文ではなく、「これ以外にない」ということが強調される。限定の意味の *saja* は、それぞれの特徴を持ちながら、唯一性、多数性、持続性、最低限、極限性に分類することができる。それに対して、限定以外の *saja* は複数性と不定性、アスペクト副詞の強調性、モダリティ副詞の強調性（意味の変化に関わることもある）を表す。
- b. 限定副詞 *hanya* は出現位置が被限定要素または語に前接する。基本的な限定の意味としては、「満たさない」及び「少なさ」という意味に分類される。対象となる要素（数量・事柄）が話し手のとらえる質的または量的な基準を満たさないことを

表すが、ある事態が被限定要素だけに当てはまるという意味の「少なさ」を表すこともあることを明らかにした。また、限定の意味を含む接続詞として機能している **hanya** の使用も確認した。さらに、**hanya** の砕けた表現で、会話で使われる **cuma** についても考察した。**cuma** は限定副詞以外に、派生語を形成することができる。**cuma** を元に形成された派生語は **percuma**「無駄になる、無料」と **cuma-cuma**「無料」である。**cuma-cuma**, **percuma** は、同じ語根 **cuma** 由来していても、実際の用法は **cuma** と異なる。

- c. 限定副詞 **sekadar** は述語動詞及び述語名詞にしか前接できず、人称代名詞と数詞に前接できない。**sekadar** は被限定要素に対して深い意味や理由はないというニュアンスを表している。意味の面では、それぞれの特徴がありながら、単なる動作・物に対してそれ以上でもそれ以下でもないことを表したり、それ以上ではないことを強調したり、それ以上はあり得るがそれ以下はないことを表現したりする。また、**sekadar** は派生語 **sekadar-nya** を形成することもある。**sekadar-nya** は **sekadar** と違って物事を限定するのではなく、ある物事の割合あるいは値がやや少ないことを表す。
- d. 限定副詞 **semata-mata** は、フォーマルな話し言葉によく使われている。**semata-mata** は述語動詞句／名詞句、目的と理由を表す接続詞、目標／理由／方法／動作主を表す前置詞句に前接できるが、**SVO** だけの文には出現しにくい。そのため、**semata-mata** の文には目的と理由を表す接続詞、目標／理由／方法／動作主を表す前置詞句の出現が不可欠である。意味の面では、**semata-mata** は多様な意味を持たず、「唯一絶対」の意味しか持たない。

第3章では、限定副詞が結合した構文を取り上げた。結果として、2つの限定副詞の結合の構文と3つの限定副詞の結合の構文に分類できた。また、2つの限定副詞の結合は「限定副詞＋語＋限定副詞」と「限定副詞＋限定副詞＋語」のパターンがあり、3つの限定副詞の結合は「限定副詞＋限定副詞＋語＋限定副詞」のパターンが形成される。そして、結合している限定副詞の中でどの限定副詞が被限定要素に関わるか、及びどの限定副詞がもっとも意味が強いかについても指摘した。

第4章では、限定副詞同士が置き換え可能・不可能な構文を考察し、その後相違点と類似点を取り上げた。結果として、限定副詞同士が置き換え可能な構文は、基本的に限定の意味に限られ、置き換え不可能な構文は、**saja** の拡大限定（多数性、持続性、最低限性、極限性）と **saja** の限定以外の意味（複数性・不定性、アスペクト副詞の強調性、モダリティ副詞の強調性）、逆節等位接続詞 **hanya**、（それ以上ではないこと）を表す **sekadar** である。また、置き換え可能な構文については、限定副詞の相違点と類似点を確認した。4つの限定副詞の中でもっとも焦点の幅が広いのは **hanya** と **saja** で、焦点の幅が狭いのは **sekadar** と **semata-mata** である。そして、選択したそれぞ

れの限定副詞は、話し手の言いたいことを暗示しており、異なる態度を伝えているので、限定副詞の選択には主観性が関わっている。

第 5 章では、インドネシア語の限定副詞（主に **saja** と **hanya**）と日本語のとりたて助詞（主に「だけ」と「しか」）の対照研究を取り上げた。結果として、焦点化構文に関しては、それぞれの特徴を持ち、両言語の焦点化構文のパターンが明らかになった。また、「だけ」と「しか」の文が意味の面ではどのような限定副詞に対応できるかについて記述し、ほとんどの場合「だけ」は **saja** に訳され、「しか」は **hanya** に訳されるが、必ずしもそういう対応だけには限らないことが分かった。さらに、**hanya** に比べれば **saja** は様々な使用があるため、「だけ」以外のとりたて助詞「ばかり、さえ、でも」にも、対応できる。



